

# 社会学部現代福祉学科について

## 1. 背景

### (1) 学科改組の背景

現在、龍谷大学社会学部には、社会福祉学を学ぶ学科として地域福祉学科、臨床福祉学科が置かれている。これは、平成元(1989)年4月より設置された社会福祉学科を、平成10(1998)年に、当時の社会福祉専門職への社会的要請にこたえるため、コミュニティソーシャルワーカーの養成を主とする地域福祉学科と、対人援助に力点をおく臨床ソーシャルワーカーの養成をめざす臨床福祉学科に分離したものである。本学卒業生の社会福祉分野への就職率は非常に高く、毎年卒業生のおよそ6割近くが福祉現場に専門職として就職し、高い評価を得ている。

しかし、現代社会における社会福祉問題は、家族や地域関係の変容、経済状況の悪化などを反映し複合的・重層的に深刻化し、地域社会や就労現場、教育現場などにも広がりを見せており、社会福祉教育にはこの状況に対応しうる教育内容と人材養成が求められている。

こうした現代社会の状況変化と社会的要請に応じるために、地域福祉学科および臨床福祉学科において展開してきた社会福祉教育の実績をふまえ、両福祉学科を統合して教育資源を充実させ、社会福祉専門教育の高度化をはかるとともに、福祉現場に限らず多様な領域で福祉知見を活用した支援、社会貢献ができる人材養成を行うべく「現代福祉学科」を開設する。

## 2. 教育の特色

大学での社会福祉教育では、質的な期待に応えうる人材の養成が重要となるが、これらは単に社会福祉専門資格の取得によってではなく、資格を活かしうる見識と実践力を同時に涵養することで達成される。

そのため現代福祉学科では、社会福祉士、精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目に加えて、複合・重層化する福祉問題を適切に理解する講義科目、多様な領域での福祉ニーズへの対応、社会貢献に関する講義科目の設置、さらに、資格指定科目の実習以外にも支援者や当事者との連携において実施される実習を強化するなど、社会福祉教育に求められる現代的要請に応えられる科目構成の多様性と実践力形成に重点をおく。

以下、現代福祉学科の教育の特色として4点をあげる。

### (1) 科目の再編と3つのコース(履修モデル)の設定による学修指針の明示

#### ①科目の再編

現代福祉学科では、科目を主に以下のように区分して学生に提示する。

- ・「福祉基礎科目」—社会福祉学の基本と基盤を学ぶ科目群
  - ・「福祉発展科目」—福祉専門性の高度化を図る科目群
  - ・「福祉応用科目」—自治体や学校、企業などでの福祉的実践の汎用化を意識した科目群
  - ・「福祉教育科目」—教職課程を中心とする科目群
  - ・「実習系科目」—専門的実習および実習指導、その他の選択実習からなる科目群
- さらに矯正保護についての科目から構成される「矯正保護科目」も置く。

#### ②コース(履修モデル)の設定

上記科目設定との一定の対称関係のもと、以下のコース(履修モデル)を設定し、学修と進路選択が一連のものとしてとらえられるようにする。

- ・「ソーシャルワークコース」—福祉専門職をめざし、高度な専門性の習得を目指す。
- ・「社会貢献コース」—福祉的視点や技術をさまざまな領域の支援活動に活かすことを目指す。
- ・「福祉教育コース」—特別支援学校教諭をはじめとして教育現場に福祉的視点を持って教育・支援活動ができることを目指す。

## (2) 学部共通講義の設置・社会共生実習の増設による多彩な学修機会の提供

「学部共通講義」は、各学科の講義のいくつかを他学科生が受講することができるように設定し、これにより幅広い学修機会が得られ、問題理解と解決に有益な知見の修得が可能となる。

「社会共生実習」は、社会学部教員の研究・実践フィールド(貧困家庭児童への学習支援、ホームレス支援、多様な障害者との交流、原発事故被災地との交流および復興支援他)において設定され、その関係者や学科を超えた教員、学生との協働から、多くの刺激、示唆を得られると期待される。

## (3) 演習・実習の増強および講義との循環による理論と実践の相乗的学修

社会福祉学の教育課程においては、理論学修とともに実践的トレーニングと現場体験が極めて重要な意味を持つため、少人数制の演習、実習を増強し各年次に配置して、講義—演習—実習の循環的カリキュラムを編成する。

多種多様な演習、実習により、学生はそれぞれの関心、希望に応じた選択ができ、しかも複数の演習、実習を履修できることにより、幅広い総合的実践力が形成される。

さらに講義—演習—実習の循環により、講義の理論学修、演習の模擬的体験や事例検討、実習の臨場的な体験が連動し、それぞれのフィードバックからさらなる学修への関心と理解の深まりが期待される。

## (4) 国際的視野をもった福祉人材の養成

今日の社会福祉実践において、国際的な視点を持つことは必須となっており、「多文化共生論」、「国際福祉論」等の科目を通して排除されがちな国内における外国人問題への対応や国際的支援実践のあり方を学ぶ。さらに、途上国への支援としてソーシャルビジネスを展開している NGO と連携して「国際福祉英会話」を開講し、「社会共生実習」においても NGO との協働をはかるなど、理論と実践の両面からグローバルな視野を持つ人材を養成する。

## 3. 取得可能な資格等

中学校教諭一種免許(社会)、高等学校教諭一種免許(公民、福祉)、特別支援学校教諭一種免許、社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格、社会福祉主事任用資格、児童指導員任用資格、児童の遊びを指導する者任用資格、児童福祉司任用資格、母子指導員任用資格、身体障害者福祉司任用資格、知的障害者福祉司任用資格、本願寺派教師等

## 4. 学部収容定員

学科	2016 年度以降			現 行		
	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
社会学科	195	5	790	190	10	780
コミュニティマネジメント学科	140	3	566	115	10	480
<b>現代福祉学科(新)</b>	<b>180</b>	<b>30</b>	<b>780</b>	—	—	—
地域福祉学科	—	—	—	145	20	620
臨床福祉学科	—	—	—	140	20	600
社会学部 合計	515	38	2,136	590	60	2,480

## 5. 卒業後の進路

社会福祉施設や社会福祉協議会、病院等医療機関、児童相談所等行政機関、社会福祉施設や福祉専門機関、病院、学校などでの専門職。地方自治体、NPO や NGO などの支援団体、社会貢献活動に取り組む企業、社会的企業、さらには福祉的視点と技術を直接活かす福祉機器・介護用品などを扱う福祉系企業、福祉ニーズを抱える利用者も多い接客・観光業あるいは教育業、その他各種の地域団体。特別支援学校教諭や高等学校教諭(公民科、福祉科)、中学校教諭(社会科)等。